

○発熱時の対応

利用を控えるのが望ましい場合	利用が可能な場合	家族への連絡が望ましい場合	至急受診が必要と考えられる場合
* 発熱期間と同日の回復期間が必要 ・ 朝から37.5℃を超えた熱とともに元気がなく機嫌が悪い食欲がなく朝食 ・ 水分が摂れていない ・ 24時間以内に解熱剤を使用している ・ 24時間以内に38℃以上の熱が出ていた ・ 平熱より1℃以上高いとき	* 前日38℃を超える熱がでていない ・ 熱が37.5℃以下で元気があり機嫌がよい顔色がよい ・ 食事や水分が摂れている ・ 発熱を伴う発しんが出ていない ・ 排尿の回数が減っていない ・ 咳や鼻水を認めるが増悪していない ・ 24時間以内に解熱剤を使っていない ・ 24時間以内に38℃以上の熱はでていない	* 38℃以上の発熱がある ・ 元気がなく機嫌が悪い ・ 咳で眠れず目覚める ・ 排尿回数がいつもより減っている ・ 食欲なく水分がとれない ※ 熱性痙攣の既往児は医師の指示に従う	* 38℃以上の発熱の有無に関わらず ・ 顔色が悪く苦しそうなとき ・ 小鼻がピクピクして呼吸が速いとき ・ 意識がはっきりしないとき ・ 頻繁な嘔吐や下痢があるとき ・ 不機嫌でぐったりしているとき ・ けいれんが5分以上治まらないとき

○下痢の時の対応

利用を控えるのが望ましい場合	利用が可能な場合	利用への連絡が望ましい場合	至急受診が必要と考えられる場合
・ 24時間以内に2回以上の水様便がある ・ 食事や水分を摂ると下痢がある (1日に4回以上の下痢) ・ 下痢に伴い、体温がいつもより高めである ・ 朝、排尿がない ・ 機嫌が悪く、元気がない ・ 顔色が悪くぐったりしている	・ 感染のおそれがないと診断されたとき	・ 食事や水分を摂ると刺激で下痢をする ・ 腹痛を伴う下痢がある ・ 水様便が2回以上みられる	・ 元気がなく、ぐったりしているとき ・ 下痢の他に機嫌が悪く食欲がなく発熱や嘔吐、腹痛を伴うとき ・ 脱水症状と思われるとき 下痢と一緒に嘔吐 水分が取れない 唇や舌が乾いている 尿が半日以上出ない（量が少なく、色が濃い） ・ 米のとき汁のような水様便が数回 ・ 血液や粘液、黒っぽい便のとき

○嘔吐の時の対応

利用を控えるのが望ましい場合	利用が可能な場合	家族への連絡が望ましい場合	至急受診が必要と考えられる場合
・ 24時間以内に2回以上の嘔吐がある ・ 嘔吐に伴い、いつもより体温が高めである ・ 食欲がなく、水分もほしがらない ・ 機嫌が悪く、元気がない ・ 顔色が悪くぐったりしている	・ 感染のおそれがないと診断されたとき ・ 24時間以内に2回以上の嘔吐がない ・ 発熱がみられない ・ 水分摂取ができ食欲がある ・ 機嫌がよく元気である ・ 顔色がよい	・ 咳を伴わない嘔吐がある ・ 元気がなく機嫌、顔色が悪い ・ 2回以上の嘔吐があり、水を飲んでも吐く ・ 吐き気がとまらない ・ お腹を痛がる ・ 下痢を伴う	・ 嘔吐の回数が多く顔色が悪いとき ・ 元気がなく、ぐったりしているとき ・ 水分が摂取できない時 ・ 血液やコーヒーのかすの様な物を吐いた時 ・ 頻回の下痢や血液の混じった便が出たとき ・ 発熱、腹痛の症状があるとき ・ 脱水症状と思われるとき 尿が半日以上出ない 落ちくぼんで見える目 唇や舌が乾いている 張りのない皮膚や陰嚢

○咳の時の対応

利用を控えるのが望ましい場合	利用が可能な場合	家族への連絡が望ましい場合	至急受診が必要と考えられる場合
<p>* 前日に発熱がなくても</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 夜間しばしば咳のために起きる ・ 喘鳴や呼吸困難がある ・ 呼吸が速い ・ 37.5℃以上の熱を伴っている ・ 元気がなく機嫌が悪い ・ 食欲がなく朝食・水分が摂れない ・ 少し動いただけで咳がでる 	<p>* 前日38℃を超える熱はでていない</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 喘鳴や呼吸困難がない ・ 続く咳がない ・ 呼吸が速くない ・ 37.5℃以上の熱を伴っていない ・ 機嫌がよく、元気がある ・ 朝食や水分が摂れている 	<p>* 38℃以上の発熱がある</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 咳があり眠れない ・ ゼイゼイ、ヒューヒュー音があり眠れない ・ 少し動いただけでも咳がでる ・ 咳とともに嘔吐が数回ある 	<p>以下の場合、緊急受診が必要です。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ゼイゼイ、ヒューヒュー音がして苦しそうなとき ・ 犬の遠吠えのような咳がでる ・ 発熱を伴い（朝は無し）息づかいが荒くなったとき ・ 顔色が悪く、ぐったりしているとき ・ 水分が摂取できないとき <p>* 元気だった人が突然咳きこみ、呼吸が苦しようになったとき</p>

○発しんの時の対応

利用を控えるのが望ましい場合	利用が可能な場合	利用中に症状の変化がある時には家族に連絡し、受診が必要と考えられる場合
<ul style="list-style-type: none"> ・ 発熱とともに発しんのあるとき ・ 今までになかった発しんが出て、感染症が疑われ、医師より利用を控えるよう指示されたとき ・ 口内炎のため食事や水分が取れないとき ・ とびひ 顔等で患部を覆えないとき 浸出液が多く他児への感染のおそれがあるとき ・ かゆみが強く手で患部を掻いてしまうとき 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 受診の結果、感染のおそれがないと診断されたとき 	<ul style="list-style-type: none"> * 発しんが時間と共に増えたとき ・ 発熱してから数日後に熱がやや下がるが、24時間以内に再び発熱し赤い発しんが全身に出てきた。熱は1週間 くらい続く（麻疹） ・ 微熱程度の熱が出た後に、手の平、足の裏、口の中に水疱が出る。膝やおしりに出ることもある（手足口病） ・ 38℃以上の熱が3～4日続き下がった後、全身に赤い発しんが出てきた（突発性発しん） ・ 発熱と同時に発しんが出てきた（風しん、溶連菌感染症） ・ 微熱と両頬にりんごのような紅斑が出てきた（伝染性紅斑） ・ 水疱状の発しんがある。発熱やかゆみは個人差がある（水痘） <p>※食物アレルギーによるアナフィラキシー</p>